

従業員向け 児童発達支援評価表

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所に従事する従業員の方に、事業所の自己評価していただくものです。
「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業員の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1	基準は満たしているものの、利用児童の状況によっては職員体制に負担を感じる場面がある。職員間で協力しながら対応しているが、より安心して支援を行うためには配置体制の見直しが必要と感じる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		段差がある個所には手すりが設置してある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1	毎週ミーティングを実施し、問題に向けて話し合いの場が設けられている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		外部研修なども積極的に参加できる場を確保している。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	日々の観察等による状況確認は行っているが、標準化されたアセスメントツールの継続的な活用については課題がある。今後、支援の質向上に向けて体制整備を検討していく必要がある。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	支援計画の作成は行っているが、ガイドラインで示される支援項目を十分に踏まえた計画作成については課題がある。今後、計画内容の充実に向けて職員間で共通理解を深めていく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		本人の特性に合わせ、プログラムが固定化されないように行っている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		スタッフで持ち寄り、反省点も踏まえて、次回に活かす工夫をしている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	朝のミーティングにてその日の流れの確認をし、変更があれば都度LINEで確認をしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	業務終了後に、申し送り、気が付いた点等共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	1	支援記録を基に改善につながっているケースもあるが、記録の活用状況に差があるため、共有方法や振り返り体制の見直しが必要と思われる。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		必要なケースに応じて協力医療機関との情報共有を図っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		
	28	(28～30は、センターのみ回答)	8		市内での連絡会に参加、必要な研修を糸満全体で行っている。積極的に参加している。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6	2	療育部会等に参加し、地域の療育に関する情報収集を行っている。今後は得られた知見を事業所内で共有し、支援の質向上により活かしていく必要がある。
	31	(31は、事業所のみ回答)	8		連絡会などで助言をいただいている。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8		近隣の保育園に遊びに居って、交流をする。又、小学生なども遊びに来るなどして一緒に活動を行っている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8		家族支援において、お家での様子や困り事等、送り迎え、送迎時にご家族とお話をして共通理解に努めている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	3	連絡会において年に数回、保護者向けのペアレント・トレーニング研修が実施されており、事業所としても積極的に参加案内を行っている。一方で、参加状況に偏りが見られるため、より参加しやすい情報提供や周知方法について工夫が必要と思われる。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1	日頃から送迎時や連絡帳等を通して保護者からの相談に対応しており、必要に応じて面談や助言を行っている。今後はさらに定期的な相談機会の充実を図り、継続的な支援につなげていく必要がある。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		月の予定はアプリで確認ができるようになっている。LINE等で都度案内発信をしている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		
非営利	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		事業所として地域に向けたバザーの実施や糸満ハーレーへの参加などを通じて、地域との交流機会を積極的に設けている。今後も継続的に地域行事への参加や交流の機会を大切にし、より開かれた事業運営を推進していく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		

吊 時 等 の 対 応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1	ヒヤリハットの件数はまだ少ない状況であるが、小さな事象であっても積極的に共有し、職員間での注意喚起と再発防止につなげている。今後は事例の蓄積と振り返りを強化し、事故の未然防止に向けた取り組みをさらに徹底していく必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		現在このようなケースは無い。